

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 1 8 回相模原市観光振興審議会				
事務局 (担当課)		市長公室 観光・シティプロモーション課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 3 6 (直通)				
開催日時		令和 5 年 3 月 2 7 日(月) 午前 1 0 時から午前 1 1 時 3 2 分まで				
開催場所		相模原市役所本庁舎 第 2 別館 3 階 第 3 委員会室				
出席者	委員	7 人				
	その他	-				
	事務局	9 人 (榎本市長公室長、ほか 8 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 諮問 3 第 3 次相模原市観光振興計画の中間見直しについて 4 その他 5 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 開会

2 諮問

「第3次相模原市観光振興計画の中間見直しについて」榎本市長公室長から、内藤会長に対し、諮問書を手交した。

3 第3次相模原市観光振興計画の中間見直しについて

事務局より、中間見直しの内容について説明を行った後、検討を行った。

主な意見は次のとおり。(○は委員、△は事務局の発言)

主な意見等

観光振興をけん引する人材の育成をしようという話がありましたが、このように皆様がさまざまな角度でお話されている、基本的な方針やコンセプトみたいなものは、私たちが観光親善大使のときは全く共有がなかったので、どんな方をターゲットにされていて、どんなふうに動いてらっしゃるのがあまりわからない状況でした。当時もう少しそれがわかっていれば、幅広い方に SNS を見ていただいている状況だったので、発信の仕方も検討できたのではないかと思います。もし機会があれば、どのような方針で動いてらっしゃるのか、観光親善大使にも話していただいたら、情報発信の力になれることがあるかもしれないなと思いました。

観光親善大使とは、例えば観光振興計画について、じっくり共有、議論をする機会が今までなく、委員からご指摘をいただきましたので、今後は主として観光をどうやって進めていくか、現状と課題等、これからの方向性を共有できるような場面を設けていきたい。

昨年10月から弊社の施策として、JR 東日本地域ネットワーク神奈川伊豆というものを立ち上げました。この内容は、地域の皆様と情報共有とか情報発信をしながら、ともに地域活性化を進めていきたいという取組でございます。資料をご覧ください、もし関心があるようでしたら、ぜひご加盟いただきたい。今後様々な講演会や情報交換を順次計画していく予定もありますので、ぜひこういった機会をご活用いただければと思います。会費等は基本的にございません。様々な観光振興の中での課題解決にいろいろ役に立てるのではないかと考えておりますので、ぜひ前向きにご検討よろしくお願いたします。

今までの観光振興計画にもツーリズムというのは入っていましたが、今回コロナ禍を経て、遠くの観光地より、マイクロツーリズムがすごく色濃く、関心ももっと近くの観光資源に向いているという傾向がありますので検討させていただき

たいと思っています。

以前は、旅連という組織がありまして、主に旅館組合と弊社とで主に商品造成をしていたのですが、昨年解散いたしました。今後は地域の人たちといろいろな意見交換をしながら、ともに地域と盛り上げていこうという趣旨から、こういった組織、ネットワークを立ち上げたということでございます。

興味深い取り組みだと思しますので、ぜひ連携させていただければと思います。

今回、基本方針の5にインバウンドの視点の取組を入れさせていただいております。相模原市は、なかなか直接インバウンドを取り込むというのは難しい面もあるので、伊豆ですとか、小田原、箱根といったところと、今も八王子市とか都留市とか、近隣の自治体と連携を組んでインバウンドの取り組みをしていますけども、伊豆・箱根と、面としてインバウンドを取り込むような取り組みを今後していかななくてはならないと思っていますので、このような組織を活用させていただきながら進めていきたいと思っています。

これは奥が深いというか、よく計画を検討された結果ですから、ぜひこれが実際に活動されることをお願いしたいと思っています。

私は、城山の観光協会をやっていて、いいところがいっぱいあるのですが、なかなか人を呼ぶような施設もないし、そのような格好になっていないということがあります。前回の審議会でも紹介しましたが、この1年間かけて、去年の4月から今年の3月まで、いろんなジャンルの22名にお集まりいただいて、テーマを決めながら話し合いをしてきました。この3月で1年経ち、総括をしまして、具体的にこれをどう展開するかといったときに、大きな壁があったりするものですから、ぜひ、これからの可能性のあるところにも目を向けていただいて。我々も協会にいろいろ相談をしていきたいと思っておりますし、また相談に乗ってほしいと思っております。

城山観光協会から、自転車、e-バイクで城山の名所を堪能、散策するという、協働事業提案のご提案をいただきまして、来年度から観光・シティプロモーション課と城山まちづくりセンターで協働事業を行う予定になっている。

この基本方針の中で、基本方針の2「地域主導型の推進体制づくり」というのがありまして、いろんな地域とかで、イベント等を企画していますが、どの地域、どのところでも高齢化が進んでおります。イベントがあると、顔を合わせるのはいつも同じメンバーで、なんだか確実に1歳ずつ上がっているような感じがしてならないのですが、こういう中での人材育成、特に若手の育成が必要だと思っております。具体的なことはこれから決めていくと思うのですが、観光の今後を考えると、人材育成の観点も重要だと思っております。

相模原市は、周辺からの関係人口を増やすことがまず一つのターゲットになるかと思っております。北海道から相模原に来てくださいと言って、来る方はいらっしやんな

と思うので、ターゲットは市の周辺かと思われます。その中で、コンテンツの充実と消費を達成させるには、各施設の連携と、その発信。発信がポイントになってくると思っています。ただ、難しいのは、発信というのは、先ほど稼がせるというお話もあったと思うのですが、利益を上げてもらうというやり方なので、市や観光協会だとそこには踏み出せないと思います。これが、我々民間だと、お互いウィンウィンで、我々も利益を出して、皆さんも利益を出しましょうというやり方で話がまとまっていくことが多いのですが、なかなか、市役所だと、我々も儲けてということはできないと思いますので、私たち民間をうまく使っていただいて連携していくと、もう一步先に繋がるのではと考えておりますので、引き続き、意見交換をさせていただきたいと思っております。

箱根地区の旅館さんとリニア中央新幹線の神奈川県駅についてどうですかという話をしました。彼らが言うのは、連携はできるかどうかわからない。今は箱根地区にどんどんお客様が、訪日客も来ているのですが、相模原と繋がっていないため、リニア開通後は、リニアの方にお客さんが行ってしまうというようなことも話していただきましたので、それも含めて、相模原の観光政策は難しいというのを感じております。

もう一つだけ、MICEの推進についてなのですが、これは正直、今の施設の状態だとなかなかMICEの受け入れは厳しいと思います。あとは、これを本気でやるのであれば、施設を作らなくてはいけない。今、相模原駅北口、橋本、いろいろ施設の再開発が出ていますので、その中で出てくるのではと思うのですが、ただ、厳しいのは、作った後に利用度が低いと、そこは重荷のような施設になってしまう。市民からも多分、声が上がると思いますけれども、重荷になってしまう施設にはいけないと思いますので、このMICEについては、やるという覚悟が必要ではないかと感じております。

まず、周辺の関係人口を増やすことでは、コンテンツと商品の話もありましたけれども、新しいコンテンツとして、市がゲームのアイドルキャラクターとのコラボレーションということで、ファンが(市内)9ヶ所のスポットを選んで、市外から大勢、相模湖であったり、たまご街道であったり、9ヶ所を巡っていただきました。10年前にはなかったコンテンツなのかと思っております。先ほど中野委員からも、担い手の高齢化というのがいろんなところで課題になっていて、新しいコンテンツへの理解といますか、目を向ける、転換していくことも必要なのでは、今までの観光の思考でいるとなかなか難しいのではと感じている部分があります。もちろん民間の皆様と協力しながら、新しくして広げていかないといけないのではと感じております。

またMICEにつきましては、まさに、新しい施設を作るのが難しい状況になっておりますので、来年度実施する事業でも、今ある施設で可能な研修など、既存のもの

を使い、どういったことができるのかというところを、もっと掘り下げて研究していき、その中で、相模原でできることを見つけていきたいと考えております。

ゲームのキャラクターについて、これはアイドルマスターという、バンダイナムコのコンテンツですが、この取り組みについて、今回初めての試みとしては、ツイッターをメインに使い、人を動かすということでした。通常、人を動かすときは、スタンプラリーのような昔からあるようなことをやるのですが、今回、ツイッターだけを使って動かしました。もともとアイドルマスターというコンテンツがすごく強くて、告知をするだけで30万人くらい見てくれたりするのですが、なかなか年配の方はキャラクターを知らないのも、それが効果的なのかと懐疑的なところはあるのですが、実際人が動いてくるし、消費活動もすごく活発でした。サガミックスという市のアンテナショップでも、アイドルマスターのグッズを販売することで、歴代の売り上げが歴代1位、2位を記録していきまして、これまでの取り組みも重要だと思っております。新たな取組を試し、そのような中で成功体験を積み重ねていくことが、次に繋がっていくのではないかと、改めて感じたところでございます。

また、相模原市の一番売りなのは、自然がありながら都心からすぐ近いということではと思っていますので、その観点で引き続き取り組みをしていくとよいかと思っています。

魅力的なアクティビティを有するテーマパークという言葉が多くあり、頑張らなきゃいけないなと思っていますので、弊社に繋がるところでいくつかご披露させていただくと、例えば自然体験コンテンツの充実ということがございます。ドローンをやったり、陶芸体験とか、花のメッカにしたりとか、あとサバイバルゲームを今年新しく始めていきます。また、先ほど地域ブランド調査とありましたが、私も調査を重要視していきまして、お客様アンケートをいつも見ていて、絶えず変えているところです。

あとインバウンドがございましたけども、今度、ドローンショーを実施し、インバウンドの集客をしていきたいと観光協会と考えているところでございます。

また、中国では、キャンプファイヤーをして、夜に大きいスクリーンで映画を見るのが流行っているようで、その辺のことを作り上げて、5月9日に中国人観光客がファムトリップで来るので、その辺の獲得を目指していきたいと。また、今はイルミリオンと雪と、花が強み。一応インバウンドは1万人くらい今来ているのですが、これを10倍ぐらいにしていくという命題がありますので、それをしっかりと達成していきたい。現時点ではタイと台湾の訪日観光客が来ているのが現状でございます。

食という話もありましたけども、弊社も食を充実していかないといけないと思っています。また、相模原市の認知度が4%くらい上がったのはなぜなのかと思いが

ら資料を見ておりました。あとはトイレの充実とか、Wi-Fiとか、キャンプ場を持っていて、そこの依頼がすごく多いです。これについては充実をしているとこでございませう。

イベントについて、地域経済効果が薄い面があるという言葉がありますが、今回「すみっコぐらし」のイルミネーションをしたときに、12月から過去最高4ヶ月連続で、この17年間の中で売り上げを上げている理由というのは、物販と食事がキーワードにあって、イルミリオンだけで夜単価が4,500円と破格の単価が出ていました、重要なのだと実感しています。

また、外国人対応については、例えば翻訳の機械を入れて、看板の充実とかをしていきつつ、あとは石老山に結構ハイキングの方が増えてきていて、その帰りに温泉に寄っていくというのがあるので、そのようなところの獲得もしていければいいと思っています。

また、海外事務所は上海や台北にあるので、その事務所に、相模湖にどんなものがあたら集客できるのかということをお宿題で出しています。ちょっとしたことで人が来るので、そのようなことを取り組んでいます。

市観光協会でも、昨年度に経営方針を出ささせていただきます、その中では、ネットワークと、地域経済・地域文化の活性化、あと都市経営への寄与、この三つを大きな柱にさせていただきます。その部分ではある程度中間見直しと合っていると思っていますのですが、先ほど牧野委員からもお話があったように、行政が利潤を追求することはなかなか難しいので、例えば都市経営のところ、観光振興計画の中で触れた方がいいのではというのは、皆さんご存知のとおりスーパーメガリージョン構想です。その中で、基本的に首都圏南西部の広域交流拠点ということで位置付けをしている中で、産業の推進とか観光の部分をぜひ生かしていけば、都市経営への寄与に発展していくのだと思います。

市観光協会の経営方針もそのような形にしているので、この観光振興計画の中でも、整合性を合わせていただいた方がいいと思います。

皆さん議論されている中では、相模原の魅力というのは自然が多いとか、その部分がクローズアップされています。これからの相模原市を考えていくときに、もう皆さんご存知のとおり、リニア中央新幹線は非常に大きなファクターになります。今、スーパーメガリージョン構想のお話をしましたけれども、このリニアの供用開始が、観光に限らず、経済、まちづくり、その他の市の主要施策すべて大きな飛躍を遂げていく、一つの大きな分岐点になると思います。

リニア中央新幹線神奈川県駅で降りてもらわなきゃいけないと思う。ストロー現象といって、外に出ることばかりになってしまうので、是非ともそれは避けたい。それはリニアを推進していく中で大きな課題でもあるし、大きな特質でもあるので、そのところを、この中間見直しの中で大きく触れた方がいいかと思っています。私ど

もはリニアが供用開始するまでは、基本的には中山間地域振興にシフトをするが、本市は都市と自然のベストミックスを図るのならば、都市型の観光についても考えていく必要があります。

市観光協会では、来月から町田市観光協会とジョイントを組みまして、まず町田のいいところを来月に何ヶ所か相模原市民に回ってもらい、今度秋ぐらいに、町田市民にこちらのいいところを回ってもらう。今そのような町田市との提携をさせていただいています。

自然体験型よりも都市型の方が、経済効果がある。経済の活性化と都市経営に寄与していくには、都市型観光に向いていくのかと思う。消費額が全然違う。ただその原因を作るために、いわゆる自然体験型に気を配っていく必要があるだろうと。なかなか行政でそのようなところまで触れるのが難しい部分もあるのですが、ただ、相模原市の都市全体の発展という形を考えるならば、そろそろそのようなことを表に出していくことは必要だなと思っています。

中間見直し後の計画期間があと4年あり、市全体の施策としても、今中山間地域の振興のプランニングをやっている中で、方向性を決めていますので、これから橋本、相模原のプランについてもあと2、3年のうちには固まっていく予定になっています。そうすれば、MICEの話についてもある程度整理がついてくると思います。ただ、その中で、そろそろ観光振興計画の中でも自然体験型だけじゃなくて、都市型観光についても触れておくことが、将来、橋本相模原の計画ができたときの大きな弾みになると思うので、私としてはこの中間見直しの中で少し、方向性だけでも触れていく方がいいと思います。

都市型観光につきましては、エリア別方針の中で基本方針をもともと掲げておりますが、確かにスーパーメガリージョンですとか、リニアの部分について、貴重なご意見いただきましたので、今回の中間見直しに反映できるところについては、今のご意見を踏まえて検討していかなければいけないと感じたところでございます。

今年度、委託調査の中では、首都圏の中で相模原に来られている方と、あと台湾から日本に4、5回以上来られている方に調査をした結果、相模原に来る理由として、相模原にしかないもの、相模原でしか体験できないものがないと、相模原を選んであえて来ることがなかなかないという結果も出ておりますので、そのような意味ではまさに、自然が重要ではないかと思う。市内でも調査をすると、自然がたくさんあるというところは、評価がすでに高いというのはあるのですが、中島副会長からもご発言あった通り、都市の部分については、他と何が違うのだというところが、相模原の特色が出せていないのではという課題もありますので、そこはまさに市の観光協会の事業とも密接に関わる部分ではございますので、連携しながら引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

都市型観光につきましても、重要な視点だと私も思うのですが、これからは

意識した取り組みを、まちづくりを、合わせてやっていくといいだろうなと思います。そこに行き着く前に、まずは本市の得意な自然環境、これを活用したコンテンツも、どんどん発展、充実させて、まずはそのようなところで注目を集めるということも重要かと思っております。引き続きいろんなご意見いただきながら、連携してやっていければと思います。

茂手木委員から先ほど、相模原市の認知度が上がった理由の問い合わせがあったと思いますが、この調査は誤差が結構あるので、何とも言えないところではあるのですが、今本市で取り組んでいるのが、観光・シティプロモーション課と別に総合メディア戦略推進課という課で、メディア露出度を向上させることが本市の発展にも繋がるというふうな考えを持っています。

本市はもともとフィルムコミッション、いろいろとドラマとか映画とか、そのような撮影現場にかなり使っていただいている都市でもあり、こういったところをもっと外に発信していくのも重要かと思えますし、市の特徴をそのままストレートに出していくというのもすごく重要な取り組みかと思っております。

今後観光施策を進める中では、メディア露出度を十分認識しながら取り組みを進めることも大変重要というふうに思っています。それが結果として、認知度向上にも繋がっていくのではないかと思います。

リニア中央新幹線神奈川県駅で降りていただく理由に、レジャー施設に行くというのが、重要になってくるのではとも感じておまして、今も連携をさせていただきながら、重要な観光のコンテンツでございますので、そういったところと密接に関わりながら、将来のリニア開発も見据えて、今後も引き続き連携しながら取り組んでいきたいと思っております。

インバウンドの今日本の現状についてお話させていただきたいと思うのですが、昨年の10月以降ご存知のとおり、コロナ禍も大分緩和されまして、基本的に外国人観光客は戻ってきています。ただ中国については、まだほとんど戻ってきておらず、一番戻ってきているのが韓国、シンガポール、台湾。その辺りが大体9割ぐらいが戻ってきて、またアメリカ、カナダ、オーストラリアがコロナの前の8割ぐらいまでできています。

これから中国人観光客が入ってくると、インバウンドが一気に増えてくると思うのですが、インバウンドというのは、結構日本大好きな人が多いものですから、一度来たら一度きりではないのですよね。2回、3回と、最初は鹿児島に行ったけれども、次は北海道に、今度は東京にと、何回も来るのです。その時、相模原では例えばプレジャーフォレストさんみたいな知名度、集客能力があるというようなところでまずやってもらって、そこで人を呼ぶような仕掛けが良いと思う。ただ、今の観光客は数日間日本にいますから、例えばそこだけで1日は費やすことはできるが、2、3日その辺に滞在していただくとなると、その周辺のところでもう1日は回る

ことも絶対出てくると思います。したがって、まず大企業が頑張ってください、いろんな企画をしていただいて、我々みたいな中小企業はそれに着いて行って、来た人に残り1日2日を費やしていただくことが必要かと思います。

先ほど、調査の話をさせていただきました。台湾で、日本に何回かお越しいただいたことのある方にアンケートを行ったのですが、まさにおっしゃるとおり、特異性がないとなかなかここに呼び込めないという結果が出ております。それを、2日、3日滞在させるとなると、プレジャーフォレストさんに1回泊まっていたり、我々の強みであるキャンプ場に呼び込んだりとか、各地区内の主体が連携をして呼び込むという作戦をとっていくことが必要かと思います。

今日改めて榎本市長公室長さんから諮問書をいただいたのですが、この見直しの内容が、改めて申し上げますと、一つは、自然環境を生かした体験型コンテンツの充実、2番目は地域に関する稼げる観光、3番目は周辺都市や多様な産業との連携の推進ということで、この3つが、私は重要だと思います。しかも、これが諮問書の中にきっちりとの的確に指摘されていることが、相模原市はすごいなという感じがしました。

諮問内容をもう一度申し上げますと、コロナ禍がありますけど、密を避けた個人旅行、近場での旅行、マイクロツーリズムということで新たな観光需要の顕在化など、観光を取り巻く環境が大きく変化していることで、多様化する観光客のニーズに対応するということが事業展開を図っていく必要があるのだとおっしゃっている。近年になく諮問の内容もはっきりしているし、事務局はこれをどういうふうに具体化するかということが大変だと思いますが、よろしく願いしたい。

5 その他

6 閉会

以 上

第 1 8 回相模原市観光振興審議会委員出欠席名簿

区 分	氏 名	所属団体等		備考	出欠席
		名称	役職等		
学識経験者 ・ 専 門 家	内藤 錦樹	桜美林大学	名誉教授	会長	出席
		観光振興アドバイザー			
公 募 委 員	岩永 優花子	公募委員			出席
関 連 団 体	中島 伸幸	(公社)相模原市観光協会	専務理事	副会長	出席
	大貫 幸雄	大島観光協会	会長		欠席
	中野 秀人	城山観光協会	会長		出席
	関戸 昌邦	津久井地域商工会連絡協 議会	会長		欠席
民 間 事 業 者	牧野 英太郎	(株)J T B 相模原支店	支店長		出席
	佐藤 賢策	東日本旅客鉄道(株) 橋本駅	駅長		出席
	茂手木 祐介	相模湖リゾート(株)	代表取締役 社長		出席